

令子洞房

分六寸三	コ	ヨ	紙	表
分二寸五	テ	ク		
分九寸二	コ	ヨ	粹	文
分一寸四	テ	ク	本	

計都々十二篇幸兩二船と云々
 妙吹の楠庭尉が探母の巻を比々海
 門の会子子授野中れ花娘子無よく逃
 じ書緯何ぐと後と奏するところ逃
 却々々々せんげの草紙ふとあすいんてん
 やば世さうなれさる士農工商入ぬる様
 治部是と佩と震さるる助六が布袋
 ごとく然くは期月あてて通とぬ女房の
 派を依々々四角あま子と根ほけや
 せん堂膳々洒落卒れ胡麻畑かひ身子
 船屋了運んや々々上り下りあか
 てまうんせん徳のいこちを云々

底を叩て口訣を説壘を抑て口舌を辨ず通
計都て十二篇壹兩二部を一巻とし以て新
吹の楠廷尉が櫻井の巻に比して海内の令
子に授郭中の花娘に與よと進む書肆何が
しそれを奪へるがどく遂にひつたくれん
げの革細工をなすいんでんや此世にうま
れたる士農工商入込の遊治郎是を佩て廢
ざる事助六が印籠のごとく然らば期月に
して通と成女郎の涙を緒とし四角な玉
子を根つけとせん豈乾く洒落本の胡麻胴
亂此息子部屋に速んやと貴賤上下おしな
めてみなかんせん縫のいとくちをしるす

自序

草の極品あるをムスコビヤといひ女郎の草羽織あるをミジマイベヤと云粧飾の仇口は客の名として息子隔室のやまは子女郎の鬼膽とこそす印傳ふぬ京傳の面の皮を制する虚言の皮を又名号て無粹語歴夜といふも素よをきまが衣巾着の名代をも勤ずむふぬ相子久しきを頻にこうし堂の主人が提物にあつふ

作者京傳述

自序

草の極品なるをムスコビヤといひ女郎の草羽織なるをミジマイベヤと云粧飾部屋の仇口に客の名たては息子隔室の無多口に女郎の魂膽をはなす印傳ならぬ京傳が面と皮を製したる虚言の皮を又名號て無粹語歴夜といへども素より遣手が前巾着の名代をも勤ずむなく箱に久しきを頻にこうしよ堂の主人が提物にあたふ

作者京傳述

目録	
やトミの辨	後朝の審みツの見ず
如くみツの見ず	秘會のしるしをば
床と座敷との夏	りもあそびの事
黙ひ切の夏	如く虚実と知る
にくとりの事	いふの事
客女房は月かすき	如く身のかゝるの夏



馴染の介

或人問曰。女郎買は武十會位にすぐべからず。あまり心やすくなりては。内證の相談。何かのもめ合。諸わけ。手くだ。こんたん。りくつ。心をつかうばかりで。慰みはなし。しかればなじみふかゝらぬうちが。あそびの花ならんか。答曰女郎買武十會くらゐまではあそびのうわ水也。そのうわ水をながし。すいひしあけたるこんたん。諸わけ。むづかしく搦むが遊びなり。なんぞうわ水をよしといふ事あらん。又問女郎はせんたいなくさみにかふ物なれば。おもしろく興になるこそあそびなれ。こんたん。諸わけ。心づかひが。あそびとは。答曰さればよ。其花をとるものあり。其貨をとるもの有。女郎の虚實にかまはず。我ひとりのあそびに。新造をいくらもあけ。藝者をよび。牽

頭持をつれ。どつとさわひですつとへる。是たのしみの花なり。かやうに花やかならずとも。座しきもしづかに遊び。たがひにかざる心なく。くめんごと。諸わけ。万事かたりあい。ともに樂しみ。ともにくろうする實情をたのしむ。是あそびの實なり。此ふたつは客の心にあるべき事なれども。其實をたのしむは客の心ばかりでゆかぬ事なればなりがたし。花をたのしむはどこでもなる事なれば仕やすし。同事なれば初會やうらよりなじみの所にてさわぐは。家内も心やすく。ひとしほおもしろかるべし。なじみなきをあそびの花といふ事非ならずや。又問床をこのむはやばらしく。座敷の内が。あそびなりと云人有。いかゞ。答曰是もおなじ道理也。座敷は遊びの花。床はあそびの實なり。いづれあそびならざるはなし。又問しからば其貨をとらんか。

其花をとらんか。答曰花も實ともにとるにしかず。たとへば座敷のあそびは風袋也。床のあそびは正味なり。床にて我實情を見せ。女郎の誠を掌に握らば。座敷のあそびも求すして面白かるべし。是正味多ければ。風袋おのづから重くなるがごとし。問人拒て去。

後朝の客五ツの見やう

もてたる客と。ふられたる客と。口舌したる客と。あやなされたる客と。一通にあそんだる客とは。歸のやうすにてしるゝなり。其見やうはもてたる客は。おとろへてねむるやうな顔にて。物あんじ姿にて。粹らし。ふられたる客は。腹立そうな顔にてつかれもみへす。茶屋。船宿などのなんでもない事をしかりなどして。やばらし。あやなされたる客は。何かうれしやうにこゝろして。つか茶屋などにふつづかなは

なしをしながら。やかためいて見ゆ。口舌したる客は。腹は立ずして。連か茶や船宿など。しづかに理屈をいふ。一通にされたる客は。顔色常のごとくあまりねむそうもなく。いそひでかへる舞也。見わくる人はゆびさして評すべし。はづかしき事なり。もてゝも。ふられても。かけられても。口舌しても。平氣にて有べし。平氣にてゐれば。口舌しても。理屈能わかり。もてゝもはまらず。ふられても腹立ず。かけられてもあやなしにのらす。四ツの徳あり。是身をまつたふする實なり。

女郎五ツの見やう

凡の女郎の氣質は百人百色なれども。其大がいを見様あり。見世に居女郎を見るに。表に人の名をよべばきよろ／＼し。立てかうしより祝く。又かうしへ人來。女郎の名をよべば。につこ

りとわらひうれしやうにうたへて。立てひそかにはなしなどするは。ふかき色客有女郎としるべし。おもてにうた上りの聲。あるいはこわいろ。尺八。ふへなどの音をきひて。見世に居ながら。そとをさしのぞき／＼見るは。地色のあるなり。又むだ口をきいて。高わらひをし。だまつて居れば。口などをあき。鼻をいぢつたり。そこらをかいたり。身持の愼うすきやうに見えるは。とりしめて色をするにもあらず。色せぬがせぬにもたゝす。たいもなきむだ女郎なり。笑うにもすましたやうな顔をし。物を言にもつくり聲をなし。なんでもない事を何からしくいひなし。流し目をし。むしやうにふんとするは。見へをこのみ。知つたふりをし。其くせ智恵のなひつくりものゝ浮氣女郎なり。もとがこしらへもの故。きようこつに見へるものなり。あまり

物もいわず。いふときは小聲にて。よそ見をすれば横目で見。笑うときもにつこりとした斗で聲をたてず。眼の内に色をふくみ。物事たいそうになく。しつぱりとをちつて見へるは。大舞ものにあらず。此女郎に實あらば。誠のいろにて末をもとぐべし。かけられたらば。身代分散におよばは目のまへなり。おそるべし／＼。

初會にもてたる様子

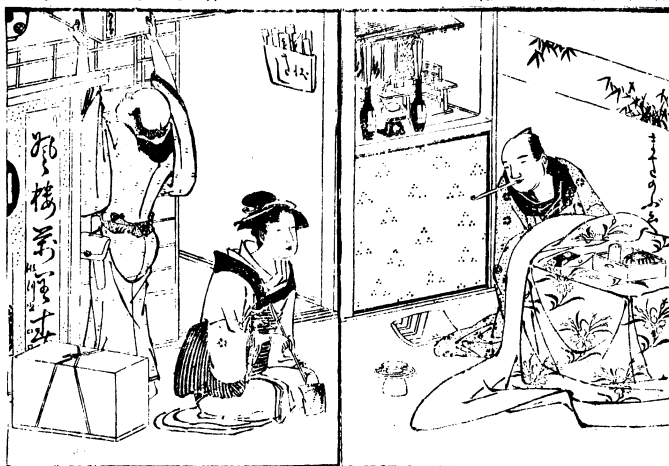
初會にて座しきへあがり。たばこぼん。燭臺。盃。すゞりぶたなど出て。茶や船宿などはなしして居るところへ女郎來り。客を見てすこしらひの色をふくみ。座になをりてかたちをとゝのへ。酒をもおはくのます。客しいればこれそふにすこしらひながら。半ぶんものみ。煙草などのむにも鹿相なきやうに諸事をつゝしみ。うれしさうなてい

あり。笑う時は脇をむいてわらひ。口に手をあてなどする。客のいふ事。なす事。みなきにいらしたる様子にてわらひ。はづかしそふなていありて。くらき方へ顔をむけ。そばへよりたけれど。も何とか思われんと。斟酌して見ゆるなり。是ほどなれば客の酒のむを。其やうにのみたまふななどゝとめる事あり。其時のあいさつ先の氣にあたらぬやうにすべし。彼是するうち。床おさまるなり。扱床になりてもはやく來。かぶろに行てねよといひ。そつとはな紙を出させ。ちよつと座敷を出。隣さしきなどへ行。鏡にむかひ。をしらい。口べになど。心をつけて見てくる也。扱こわそうに床へ入。たばこをつけて出す。また外のきせるにて四五ふくものみ。客の枕をつけるを待。客をとれば。ある事なり。女郎もはな紙を取。まくらにあて。すこし客の方へよせう

つむく。ねるにあらず。顔ばかりうつむひてはづかしそふなり。是は上りの出來なり。わが。ゑのたり。つ。を。し。む。は。あやなすのか知らねども。こつちの物と思ふべし。

床と座敷の事

座敷にてよくて。床にてあしき事あり。是は外になじみある事などか。またはあしき人なりなどゝつける者あれば。座敷にてはよくしたれども。其譯を聞て床にてふる事あり。ざしきにては悪しく見へても。床にてうつてかわりしやうに能事もあり。是は何ぞやすく見



悪遊の事

たかゝるく氣どつたか、氣味がわるひかなれども、床になるまでに、おしからぬ様子のしれたるなり。又何ぞ氣のもめる事があつて、座敷つきあしくとも、それがすみて、氣がすみたるゆへ、床にては能なる事もあり、又一座あれば、座しきにてあしくとも、一座の女郎と相談のうへ、床にてよくする事もあり、生れついてあいそうわるき女郎にても、至極我氣にいれば、笑顔になるものなり、又女郎の氣によりて、うちつけて物いふもあり、たとへば、某がどきものは、御氣にいらぬはづなれども、せめて今一度御こし下されかしなど、いふ事よろしきなり。しかれどもこふした女郎は、すへのほどたのみかたし、またあやなしかもしれず、能く心をつ、あやなしならば、はやくきて仕廻ふべし、先からつき出されたるは見るるし。

此あそび、今は世上にあまねし、其行跡一様ならずといへども、まづは日和下駄の類なり、此悪病をうくる女郎は、ながく丸裸といふ病となる事、女郎の難病也。うらか、三度めくらしいに、夜見世へ来て其女郎を呼出し、なれ／＼しい咄などしかけ、とめられたそうなくちふりをいふゆへ、義理にもあがれといわねばならず、其所へ付込、工面がないの、ふところが中の丁の、そこは御しんにある事など、からんで見たり、どぶとするならあがらうなどと、厚かましく仕かけられ、せひにおよばず、そのばんは女郎の損となり、平の色に仕かけて、口先ではまらせ、のつ引ならぬ無心をいかけ、無理にこつちから色事にこち付て引たをすなど、情の、戀の、といふ沙汰にあらず、又

茶やの男、船宿、又は友達なぞにたのみて、いひこんでもらい、むりに色客にこしらへてあがり、こすく斗立まはり、物いらすにあそび、たま／＼物まへなどに、わづかな事でも相談しかければ、さま／＼にからんで逃げたがり、せひやらねばならぬやうになると、色を物どりにするの、慾心女郎のと、難癖をつけて、それぎりでおさらば、其うへあの女郎をば、とんだやすくかつたなど、拂物でも買たやうに、手柄そうに、我耻をふれあるく、人情をしらぬといへば人らしけれども、つらの皮あつき獸なり、中にはどぶもくめんも出來ず、友達中をかりあつめて、紋所の黒つむきの小袖、すりこ木程な袖口、繩のやうな縞なこの帯、すこしは綿もちらつくを内の方へ廻し、黄色でこそあれ、緋縮緬の襦袢、毛はなしも黒天鵝絨の半衤、赤くなつて

も共むかしは黒ちりめんの頭巾。あたらしい物にははどの廣ひ日和下駄。やう／＼形は出来ても。袋中をのづから錢なし。せひにをよはず褌絆と頭巾をぬぎ捨てもたらず。友達の母。近所の女房などをなげき。布子帯などをかり出し。やう／＼こしらへて行など。はかなき遊びと言ながら。女郎をはぎさへせねば。哀なる方もあれども。かやうの身のうへの者に。女郎をたをさぬは稀なり。にくむべし。くわしく云たけれども。筆とるもうるさければ。あましにてやめぬ。

思ひ切の事

或人問曰。四代めの高尾が詞に。此里へきたらぬものこそ粹なるべし。来るはみなやばなりといひたるよし。當世の通著といわるゝ人の。新造かいてむだにしやれるはよく此詞にかなへり。

奥州がてうちんに。てれんいつわりなしと平假名にて書せしも。客におもひつかせん爲なるべし。さすれば。傾城にまよなきに極りたり。春日けいせいの一代にあふ客。何千人といふ數の内。實にはれるは十人か。貳十人なり。其内にもうわ氣も有。男の方からだますもあり。縁のないもあり。眞實に一生の身の上をまかす所は。豪人にとゞまる。その外の何千人に。ぬしの所へいきいすよは。みなうそなり。爰にて傾城にまことなしといふ事。至極尤なり。おゝくの中に。一人に誠あるを以て。けいせいに誠ありとはいひがたし。しかれ共。誠をつくす時に至つては。娘子ども。げいしやなどの色をする。ちがひ。めつたに胸へはふれず。其代に實とおもつてだまされる事。またげいしやや。地女よりあやうし。是をいやがりて。女郎をこのます。地女

をうれしがる色師は。町人の産をきらいて。盜するを好と同じ事なり。もとでををんとあぶななり。只取の算用なり。かく云へばとて。女郎に誠ある事をよく知りても。安堵するはゆだんなり。我に實有女郎と思はゞ。なを／＼心を付て。色の出来ぬやうに用心すべし。右も。左も。色の中なれば。我に實あれば。外へ心はうつさぬものといふ。たしかな證文もなし。年久しく馴染たるうへは。かくべつ。さもなきうち。しばらくも遠ざかれば。其内に了簡のかわる事有ものなり。又聞女郎のほれるは。いかやうなる所へほれる物にや。春日まづ初會にあがり。うらに行。三度めにも行。女郎もすいぶんよくつとめ。段々なじみがかさなるにしたがい。そばからきまつたの。ほれたのといわれ。もとがあまりいやでもない客ゆへ。つい本にはれたやう

な氣に成。段々と馴染はかきなる。わ
 きからは何のかのといひ立られ。しば
 らくあわねとよびたいやうな氣に成も
 の也。そこを久しくゆかねば。眞實は
 れぬいたといふではなし。いつか其や
 うにもおもわぬうち。又外にそんな物
 が出來。もはや初手ののはわすれてしま
 い。いやに成物ぞかし。いきな人じや
 の。男がよひの。すいたのとて。はれ
 るはうわ氣にて。申ノすへはとげす。
 見へがよいの。金があるのとて。はれ
 るは。慾心なり。ほれたにはあらず。
 この女郎は。年より。出家。あさぎうら
 などをすく物なり。名の高ひ人じやの。
 通り者じやのとてはれるは。名聞なり。
 いづれも末頼みがたきほれやうなり。
 すべて。はやくはれるはやくさめる
 はじめなり。貨さかつて入るものは。
 またさかつて出る道理。しるべし。い
 づれ此方に實なくては。女郎にも實は

ないと思ふべし。又問しか
 らば。此方よりほれた牀に
 もてなし。實らしくするが
 粹なるべしや。答曰粹とい
 ふは。そふした物にあらず。
 女郎のかくす事を知りて
 も。しらぬていにすまし。
 女郎に不實な事あれば。さ
 つばりとされ。わけの立た
 事は。何もいわずにをんく
 わにして。此方の實をもつ
 て。女郎の實を得る。天然
 自然の徳あるを粹とはいふ
 なり。女郎のあなをいひ。
 ほれもせぬにはれたふりを
 し。口さき面白く。女郎を
 はまらせるをすいとはいわ
 ず。女郎も同じ事にて。だ
 ますばかりが女郎にもあら
 ず。もとより情を賣物にす



る身なれば。うそもいねばならぬは
知れた事ながら。うそもうそによるべ
きなり。すかぬと思ふ客にてもよくあ
いしらい。おもしろく遊ばするが商賈
なれば。にくいと思ふてもかわいそふ
な身ぶりをし。そつちへ退けといひた
い口から。こつちをむきなんしといひ。
横面をくわせたい手でだき付は尤な
うそなり。此處はうそにてうそにあら
ず。勤の道をまゐるのなり。かくつと
めるも何の爲ぞ。世渡りの爲なれば。
物目を仕廻わせ。物まへのそうだん。
ねだり言。客の身分により。相應ノ
のことは有うちなれども。あいたる時
には弁にまかせてかけのめし。歸つた
跡では。あいつが人の氣も知らずに。
こんな事をいふの。あんな事をきくと
くやしいのと。惡くいひ。しかも地色
の仕きせをする金迄をひつたくる。い
かに勤のならないなればとて。あんまり

憎いしかた。天道ゆるし給わんや。か
やうなる不實の心なきものならば。た
とへ岡場所端ノの女郎なりとも。高
尾薄雲が下に出べからず。いかなる全
盛の太夫なりとも。どうよくな實なし
女郎は。うその皮はぐ穢多の女房とな
すべきなり。女郎をさへ其不實をにく
む。いわんや客の身として。はれぬ女
郎にほれたふりをして。勤を出させ。
無心をい。口さきで一ぱいくわせ。
しまいはたゞきはなしにするなど、
は。あんまり情ないやつなり。しかし
客にどろぼうあれば。女郎に追剝あり。
罪は五分ノと云べし。凡客の心得。
女郎にほれたらば。實をつくし。ほれ
ずばはやくやめてはれた所へ行べし。
いか程實らしくはれたふりをしたれば
とて。虚は末にあらわれぬ事なし。ほ
れた共はれぬとも。我生の通りにして。
それで氣の合女郎にあふべし。我持ま

へで。その合ぬ女郎ならば。やめに
して脇へ行に手間いらす。女郎も。
我も。互に氣が合實があらば。勤の身
なればとて。戀も情も有べし。是天の
道理。莊子が所謂造物者のあたふるな
り。女郎いかほどよくすると。折ノ
心を付て見べし。實じやノと思ふ内。
いつかほんとした目にあをふも知れ
ず。何ぞ心にすまぬ事ありて。一通り
りくつをいひ。女郎の方よりいゝわけ
などして。譯とくしんしたらば。はや
く機嫌をなすべし。一旦腹立にてき
れてしまふはそゝうなり。腹立たらば。
まづ心をしづめ。とつくりと考へ。
よノ心すますは。其時にきればし。
きれるからはいかやうな事ありとも。
立かへるべからず。いかほどほれたり
とも。女郎に實がなくはむだなり。其
女郎ばかり。女郎にもあらず。氣のす
む所へなじむべし。しかし。きれ奴を

おくるは大事なり。よく考へ了簡きは
めたうへにてやるべし。されぬやるか
らは。いかやうな事にても。ふりむき
もせぬが思ひ切の第一なり。されぬや
つたら。あやまるであらうと思ひの外。
女郎はあやまりもせず。行たくてもし
はがなし。をし事をした。とくやし
がる遊人の鼻毛の寸尺。いまだ知らず。

女郎の虚實を知る事

女郎の虚實をしらんとらば。まづ其
所帯をしるべし。座敷不相應に夜具あ
しきか。禿見ぐるしきか。或は年たけ
たるか。衣裳とのはさるか。又はう
わ氣に見ゆるか。地色のあるやうすか。
ふかひ客があるか。此るいはあやなす
事多し。うそか誠かを知るは。まづ
にてあいたる後。はやく。を取はう
そなり。しかし。若取はづしたる時は。
客の心をかねて手廻しをする事も有。

是は女郎の氣質による也。
又あつて仕廻うと。おふあ
ついなとて。うしろをむ
き。あるいはちきに煙草を
のみ。又はさつそく小用な
どに行はうそなり。ちき立
もせず。はづかしそふなる
は實なり。小用に行て。お
そく来るはうそなり。横に
行ておそき事も有。心付べ
し。口にまかせてはれたと
いふは皆うそ也。實にあふ
女郎は。ことばに花はさか
せねども。此方に思はぬ事
にも心付。しせんとふびん
の情あらわれ。さま／＼の
心遣ひして。かへしたる跡
にては物をおとしたやう
に。うつかりとなり。昼見
世をわすれて。俄病などを



おこし。やりてにうたがはれん事を
おそれて。いたくもないあたまたに鉢巻を
し。翌日迄の氣あつかいもぬしゆへな
ればと。苦勞はかへつてたのしみとし。
傍輩にもしのびて。跡や先に成たるぬ
をかい。半切の一卷もつかひ。かへ
すと書てもたらいで。おつて書
をかき。それでもたらぬゆへ。書添を
する。あけて見れば。みなをなじ事な
り。きのふの嬉しさ。宵からのくたび
れ。心はもだ／＼。いひたい事はやま
／＼。人めはつゝむ。氣はてん／＼す
るゆへ。かんじんの事は落して。やく
にもた／＼ぬ同じ事をいくらかも書くもの
なり。是は實なり。又わが座敷へ女郎
多くあつまり。てん／＼の色客のはな
しをするはよし。一通のはなし斗して
居るはよいにもあらず。これにはいか
ふわけあり。又夜見世の出ばなに格子
よりそつとのぞき。見世におらは。つ

れに我名をよばせて見べし。其時急に
立て。さはまはるは實なり。少しも
急ぐけしきなく。ふせう／＼に立て。
あたりを見るは。いかほど座敷や床に
てよきとでも。にせものなり。つれも
なくば。自身格子より其女郎の名をよ
びて見べし。實なれば。につこりとし
うれしそふに。とる物も取あへず立て
内へ入り。ぞうりも片あわせにはいて。
客そとにをれば早うかけ出。御無事か
いかと問。客をば我座敷へいれ。其
身は外の座敷へ行て。鏡を出し。白粉
をぬるやら。ふくやら。べにを付る。
えもんをなをす。氣違ひのやうになり。
人のいふ事も耳にいらす。とんだ挨拶
などして。いそがしそふに座敷へ來り。
たばこ入も。鼻紙もわすれ。今思ひ出
したやうに。禿をよび。見せより取よ
せ。すわりはすわつたが。なせか人が
居ては。はなしがないやうにして居る。

皆實なり。心をとめてあいとぐべし。
さりながら。女郎の氣により。是程に
しても。又外へうつるやうなうわ氣も
あり。あてにならぬは此里ぞかし。心
こゝにあらざれば。くらきにまよふ戀
の闇。これで闇ならしやうとがない。

つとめの事

ふかくなじみたる女郎に。ふぐ汁窓。
あさつきなどすゝむれば。女郎も心よ
くくふを。客うれしそふにうち笑ひ。
我にへだてる心なきゆへと。うちとけ
て。二人が床のかねぞを。友だちな
どにはなしてよろこぶなどこけらし。
此女郎は何の氣もなく。只はしたなく
くだるおかし。又かねぞなど相異し
て。さもなき方へ實をつくし。つい其
方へ二世かけたるを。はらちたいかる
時のありさま。ばかりし。かんざしに
客の紋を付たるを何本もこしらへ置。

客によりて紋所^{もんじよ}ちがうも。是皆世渡りなれば。もつともな事なり。しかしすべて女郎のことはに。客のはなしを聞て。そりやほんにかへといふ程つまらぬ挨拶^{あいさつ}はなし。いつでも客はうそをつく物と心得たるもおかし。つまる所。女房^{にやぼう}にして見ぬうち。は。たがいにいっ迄ろんじて。疑ははれまじ。又女房にする氣もなく。とうぎの慰^{なぐさ}みにかふ客は。なをさら。い。加減^{かへん}に疑つておくべし。

色の事

あわでやみにしうきを思^{おも}ひ。あだなるちぎりをかこち。夜をひとりあかし。とをき雲井^{くもゐ}を思ひやり。あさちが宿にむかしをしるぶこそ。色このむとはいわめ。とあれど。逢はでやみにし心はどうき事はあらじ。春の夜の夢ばかりなるもながくおぼへ。おなじ里^{さと}に近く

すまひても。しばしたより聞かざれば。とをきくもゐの心地こそせめ。あいぢやくの道。其根ふかく。源^{みなもと}とをし。六塵^{ろくじん}の樂欲多しといへども。皆厭離^{みなみだり}しつべし。その中にたゞかの迷のひとつこそ。座敷持も。部屋持も。廻り女郎も。新造^{しんぞう}もかわる事なし。はじめはたがい忍^{しの}んでの事なれば。内證^{ないしやう}のしゆび。傍輩^{ぼうはい}の手まへ迄つくろいしが。色は分別の外といふ事が。身にしみんと聞おほへ。孝行のために身をうりし親の事も。世話にして貰ふてかたじけないと思ふたなじみの客も。耻^はも。人めも。きこへも。おもわれず。あんまり



よい男とも思はなんだが。なせこんな心になつたやらとおもひながらも。思ひきられず。忘れんと思へばおもふほど。おもひ出し。どふも思ひなをされぬものなり。そこを思ひなをすは。元があんまりほれぬのなるべし。思ひ切たる後は。ふたゝびいろをせぬこそ。誠に女郎一匹なり。はじめは深くおもひても。つい遠ざかれは。さるものは日々にうとく。昔の貞女は今のたわけと思ふが常世女郎の十人並の心なり。心やすひからおこり。つい手がさわり足が障り。はじめきたないやうに思ひし顔も。見れば見るほど。すいたやうで。其男のわるひくせ返よく思はれ。無心いわれるれば。結句うれしいやうな氣に成り。くめんして。裸になるをしらぬは。傾城の氣しやう。それをまつにする客は。ばちがあたるべし。又客をわるひと思ひて見れば。見るほど

いやに成物なれども。色といふ名がつけば。はじめいやと思ふても。色といふ名にひかされて。つい嫌でもなくなるものなり。女郎の口さきでほれて。心で舌を出して居るをば知らず。實になつてかよふ客を。すこしはむごいとおもひそふ物なり。それを思はぬ女郎は。とても行末よかるまじ。さりながら。兩親は下に居る。二階で出合。屋根舟で色をし。親をば舁へ出して。竈の番をさせ。飯焚同然におもひ。しかり廻して。不孝するとも思はぬ床藝者。誦子などからくらふれば。傾城ほど。まこと有ものはあらじ。と思へども。色をも。香をも。しる人ぞ知るなるべし。

傾城の事

客の愼べき事。名代とりてはら立はむりなり。女郎の仕方によるべし。もら

ひかけたる女郎をやらぬはわるし。きれて又。つか。茶や。船宿などをたのみ。手をいれて立かへるまじき事。同じ家の女郎と色ぐいせまじきなり。我氣にぬけめがなくとも。顔へいだすべからず。かはばやばらしく見せておくべし。我あいかたの女郎とちわするはやばらし。新造。やりて。廻方。禿などを。詞きたなくいふはやすし。えもんをつくろい。帯をなをし。あせ手拭などをえりにまくはいやみなり。青黛をぬり。をしろいをつけ。つくり聲して物いふは。ばか／＼し。髪。さかやきはせずとも。身に垢を付べからず。髭爪のびたるはきたなし。身のうへ。身代。諸藝。衣類。男ぶり。自慢顔なるはむねわるし。ちんちやうなるは初心らし。心にもなき末のやくそくすべからず。外の座敷のうた上る。三味線などそしるべからず。よくねたる女郎

をおこすべからず。初會にふられては立べからず。女郎のたんすの中などあけて見まじきなり。名代の女郎に手を出す事なかれ。横に來たる女郎。久しくとめておくは心なし。客をせくは心せまし。金銀の約束まちはぬやうにすべし。はじめより我身のうへをあかす事。當世の女郎買多くする事なり。よろしからず。女郎のおさな名はやくとふべからず。長居つゞけすべからず。女郎の慎べき事。第一地色すべからず。げいしや。たいこもち。茶屋の男などゝあまり心やすくすべからず。疑うけるたねなり。色になづみ。客をそまつにすべからず。色にかまけ氣のもめるにまかせ。髪かたちとりみだす事たしなむべし。腹の立時。すかぬ客。科もなひ新造。禿などにあたるべからず。はしたなし。禿の行義詞いやしからぬやうに仕付べし。我新造の人がら。禿

の行義にて。姉女郎の身もちまでしるゝ物なり。髪を切。起請をかき。爪ははなすとも。ゆびを切。ほり物はせまじき事。一生の疵なり。ほり物はたとへやきけしたりとも。あとはきへがたし。わかいものゑこ最厭すべからず。むり酒。ひや酒。きまゝ酒。第一身の毒なり。茶碗さけのむ事。客の氣によりてあいそうのつきる事もあるべし。はづかしからずとも。はづかしきていをするは。女の情なり。大口などきくはさがなし。すそ高くまくりて歩くべからず。客のまへにて。耳こすりすべからず。女郎の氣によりて。なじみもなき客の見の所にて。外の客へやるぬかをく事あり。よからぬ事なり。客の紙入。ことわりなしにあける事慎べし。女郎の用心すべき事。初會よりふるくはれたやうな事をいふ客。はじめより我身の上あしきといふ客。初會にくら

うそんな顔色。又は至極色あしき客。女郎をはやく寐入らせたがる客。口先の至極おもしろき客。女郎のお所帯のあしきか。よきかを知らたがる客。客の用心すべき事。口へ出してはれたような事をいふ女郎。宵から女郎のそわ／＼する夜。度々座敷をあげる女郎。内のこしもと。あるひは茶やの女。若ひものなどゝ耳こすりする女郎。裏茶屋と心やすひ女郎。男げいしやをよばせたがる女郎。小用に行ておそく來る女郎。はものを手かくへ置女郎。

女郎の身のうへ

花は櫻木。人は武士。なせけいせいにきらわるゝ。其行義たゞしきを。このまぬ情を云たる付合の句なり。女郎の身うへはどあわれにおかしき物はあらし。朝夕のめしに物のいらぬばかり。その外は世帯もちにかわらず。それさ

へ。あぶらげ。なすびづけ。そば切なり。
んど。座敷持。部屋持も。襖障子のは
りかへ。疊がへ。部屋座敷の代の算用
迄。いづれか身のおぶらならざるはな
し。もとより手道具。調度はいふに及
ばず。油。元結。紅。白粉。櫛。筭
も。さすがまがいにはげなし。折／＼
時／＼の小袖も。同じものきては。中
の町いふせく。夜見世もつらきものか
ら。禿つかへば子もちのごとく。鼻紙の
煙草は。いもと女郎のまで。重荷にこ
づけとやいわん。まわり女郎や。新造
に。いかい事。部屋はいりさるゝも。
来るなどはいわれず。心よく呼ば。り
くつのきつうちがう事なり。帯や。上
着をかりらるゝも。ならぬとさすがい
ひにくし。大事にでも着ればよいに。
と小言いふさへ小聲なり。提灯。長柄
のはりかへ。こま下駄。上草履まで。
よくはやくわくるなるもうるさし。茶

すみ。らうそくのかんりやくのならぬ
も是非なきならい。茶屋のつけ金。船
宿。わかい者。やりて。お針。かふろ。
かみゆひまで。折にふれての心づけ。
衣の奉加はまだしも。上るり太夫の會
のすり物も。つらやくにもらうはうし。
とおもひきや。親方の祝ひ事。あるひ
は法事のそなへ物も。まさかすゝも
おかれず。女衞がゆすりは。しめ木にか
けらるゝ思ひこそせめ。ことに親里の
かなしき便。きけば一入つらさもまさ
り。むかふの人とよぶこどり。禿がつ
かひのやりくりも。あわたし。やう
／＼客が一人ついたと思へば。うろた
へたら。はがれそうなど。油斷せぬも
くるしきぞかし。わけて紋日のうきか
づ。湯豆腐の胸にこたへる晦日／＼の
かづかきなりて。大つもごりの提灯は。
むねをこがすほのほとや見ん。たのみ
し客のくめんさへ。まちがいのぬ見て

は。流に楫をたへたるおもひなるべし。
いかにぞや。胸つぶるゝ身のうへかな。
と未練がおこると。はまるが一時。人
間萬事中用にしかす。

繪きやもいもい
客流水面鏡 全一冊

山東京傳作
北尾政演画

耕書堂
白鳳堂 合板

天明五年乙巳正月

通油町

耕書堂 蔦屋重三郎板